

令和 3 年 (2021 年) 12 月 15 日

デンタル  
ミーティング  
冬季特別号

編集・発行人 西澤 均

定価：1 部 105 円 (税・送料共)  
購読料は日歯連盟会費に含む

# 日歯連盟広報

発行：日本歯科医師連盟 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-20

TEL：03-3262-8644 FAX：03-3263-0345 E-mail：jdpcf@jdpcf.jp

日歯連盟ホームページ <https://www.jdpcf.jp/>

● Pick Up!

## 歯科医療鼎談 コロナ禍での 歯科医療のこれから

高橋会長が山田 宏・比嘉奈津美の両参議院議員に、コロナ禍におけるこれからの歯科界と歯科医療についてさまざまなご意見を伺った。(2・3面に掲載)

## 日本歯科医師連盟主催「デンタルミーティング」全国各地で盛大に開催中!

### 日本歯科医師連盟主催「デンタルミーティング」について

国の動きや情報をいち早く全国各地の先生方へお届けし、歯科行政に通じた山田 宏 顧問や比嘉なつみ 顧問との意見交換ができる日本歯科医師連盟主催の「デンタルミーティング」が全国各地で開催されており、ご参加いただいた先生方から多くのご好評をいただいております!

山田顧問、比嘉顧問とともに、歯科界への思いがこもった講演の場を歯科医師全員で作り上げ、政治の場に皆さんの声を届けていきましょう!

顧問弁護士による「日常の政治活動と選挙運動」についての講演なども予定しております。さまざまな学びの場としてもぜひご活用ください。

※デンタルミーティング開催をご検討の際は、**日本歯科医師連盟事務局** までお問い合わせください。

開催された各都道府県歯連盟のデンタルミーティング参加者からのご意見・ご報告 (一部抜粋)

### 【千葉県】(9月16日)

千葉県第1回デンタルミーティングが千葉県歯科医師会館で Web 開催され、尾崎俊郎県歯連盟会長、高原正明県歯会会長から挨拶があり、山田顧問から「歯科医療について」をテーマにご講演いただきました。県歯役員をはじめ、県内 21 の支部から連盟支部長、評議員、また歯科技工士会、歯科衛生士会からもご参加いただきました。質疑応答では、「歯科技工士の今後の育成について」など活発な議論が展開され、盛況のうちに閉会となりました。



千葉県 (Web)

### 【秋田県】(9月30日)

比嘉顧問からは、「歯科医療政策実現のために」と題し 10 分間、山田顧問からは「直面する課題と私の決意」と題し 40 分間、それぞれ講演いただきました。

その後、出席者との質疑応答があり、高騰する金パラに替わる材料の検討や、補綴物維持管理に係る 2 年間の縛りなどの運用面での見直し、少子化対策に係る国の施策について質問・要望があったほか、本年 2 月末を期限とした 25 万円の感染拡大防止等に係る支援金の交付が遅れていることに対する質問がありました。



秋田県

### 【宮城県】(10月12日)

山田顧問から、歯科口腔保健・歯科保健医療費の充実・強化関連予算の推移の説明や歯科保健医療の充実に関する緊急提言書に関するお話などの他、歯科口腔医療勉強会についても触れられ、歯周病と新型コロナウイルス感染症の関連性や金パラの公定価格の推移についての幅広い知見を披露いただきました。

国民皆歯科健診についての説明と私見も述べられ、大いに盛り上がり、予定時刻をオーバーしてしまうなど非常に密度の高い内容でありました。

### 【北海道】(11月5日～6日)

広大、寒冷な北海道では札幌へ気軽に参集することが困難なため、山田顧問とお会いする機会の少ない一般会員を対象として函館、苫小牧、札幌での開催を二日間にわたり行いました。

自民党の公約に国民皆歯科健診が追加された直後のタイミングもあり、山田顧問からはいつも以上に説得力に満ちた力強い講演を行なっていただき、参加者は山田顧問の人柄に引き込まれように最後まで熱心に聴講されており、山田顧問の政治活動を知っていただく良い機会となりました。講演後、出席者からは多くの質問が寄せられ、山田顧問は時間間際まで回答され、閉会後は、退場される参加者一人ひとりに名刺を手渡して丁寧に対応されていました。



北海道

### 【熊本県】(11月9日)

質疑応答で歯科衛生士不足の点についても意見が出ましたが、歯科医師会員のみならず、歯科衛生士会から会員の参加もあったため、全体的に一致団結した雰囲気を持って盛大に終了しました。

[4面に続く]

# 歯科医療鼎談

**比嘉奈津美**  
参議院議員

**山田 宏**  
参議院議員

**高橋英登**  
日本歯科医師連盟 会長



## コロナ禍での 歯科医療のこれから

新型コロナウイルス  
感染症対策について

高橋会長(以下、高橋) 山田先生、比嘉先生、本日はご多忙のなかありがとうございます。まず新型コロナウイルス感染症対応について、私は日本は素晴らしい国だと思います。安倍政権、菅政権、そして岸田政権のご努力が結果として、いま諸外国と比較して、感染者数は極めて低く、あんなに大変だった日本の新型コロナウイルス感染は終息の兆しさえ見えます。お二人の先生方にはこれからの歯科界を見据えてご意見をいただけないでしょうか。

山田宏参議院議員(以下、山田)

いま、日本は国難とも言われる大変困難な状況にあり、歯科界も同様です。かつて松下幸之助は、「かつてない困難からはかつてない改革が生まれ、かつてない改革からはかつてない飛躍が生まれる」、つまり、「困難な時こそ飛躍のチャンスで困難が大きければ大きいほど飛躍も大きい」という見方をすべきだと言っておりました。こんな時だからこそ、歯科界は大きなチャンスに向かって歩いていくべきです。確かにコロナで大変な状況ですが、国民全員がこのような状況に置かれていますから、この感染症には、口の中の健康が極めて重要だということを確認



従来の疾病保険では医療費がもう賄えない。疾病予防に重点を置かなければなりません。

国の意識が変わっていく重要な時期です。つまり、団塊の世代が後期高齢者になるという日本の大きな困難は、確かに見かけは大変だけれども、歯科界から見れば、我々こそが疾病予防の中心を担うんだという決意と、これが大きな飛躍につながるという認識を持つことがまず大事だと思います。

比嘉奈津美参議院議員(以下、比嘉)

私は10月21日から、参議院議員として仕事をさせていたいただいておりますが、それまで外から自民党の活躍を見てまいりました。当初、ワクチン接種のスピードが非常に遅いというご批判もありましたが、今ではもう世界のトップクラスに入る接種率になっております。そのなかで、オリンピック・パラリンピックを大きなクラストも起こさずにやってのけた政権与党の素晴らしいさを、皆様にご理解いただきたいと思っております。そしてコロナ禍の新しい日常である「ソーシャルディスタンスを保ってください」「マスクをしてください」というなかで、マスクを外して、さらに口腔内でタービンを回すという大変な仕事をしているにもかかわらず、クラスタを起さない歯科医療従事者のご努力を、国政に伝えること

で、一定の評価は得られたと思います。

2人の歯科界代表議員

高橋 患者さんがコロナの感染を恐れて、歯科医療機関に来ないという現実がございました。

そういうなかで、一番危ないと言われていた歯科医療機関は、クラストの発生がゼロであるという厳然たる事実があります。歯科は昔からタービンからの感染リスク等、散々言われまして、感染予防対策には非常に気をつけています。

この現状をどうにか持続させなければなりません。会員は、これを自前の費用でやっている訳でございます。この問題を打開するためにどのようにかじを切ったら良いのか。先生方のお考えと、歯科医療の現場に対するご示唆をいただけないでしょうか。

山田 やはり、そういった現場の状況や、歯科が努力している内容が国にも国民にもあまり知られていない。

まず、そこを知らせていく努力が必要だろうと思います。例えば歯科口腔医療勉強会等で、感染予防対策にどの程度の費用がかかるのか具体的な数字を持って、多くの国会議員に理解してもらう。そ

〈3面に続く〉

〈2面からの続き〉

の上で、色々な委員会や部会での発言を通じて、財務省や厚労省に對して、正しい評価をさせることが必要だろうと思います。

**比嘉** 歯科の内容をご理解していただくための勉強会も行い歯科の重要性、エビデンスを持って理解されることが大切だと思っております。山田先生の突破力と、そして私は歯科医師の立場で現場が何を必要としているかを伝え、戦っていききたいと思っています。

**高橋** 山田先生は歯科医師ではないが行政経験があって、色々な経験がされている。そして、比嘉先生は歯科医師で、臨床の現場をよく知っていらっしゃる。お二人の得意分野での活躍によって「1+1」が3にも4にもなるというところが、我々にとって大きなメリ



ットです。いまの歯科界の厳しい現状を打破するには、二人の活躍にかかっていると思っています。

疾病給付から予防給付へのシフト

**高橋** いまの総医療費が44兆4000億円で、これが団塊の世代がすべて75歳以上になった時には、50兆、60兆と増大していくと、当然日本の国費ではもたない状況になってまいります。世界に誇れる皆保険制度を持続可能なものにするには従来の疾病に対する保険から病気を予防して医療費を抑えていく予防給付に重点を置く必要があると思います。

口の健康が全身の健康に大きく影響していることが国民にも理解され始めました。自己治療しない歯科疾病に対して、早期発見、早期治療するための予防という観点ではいかがでしょうか。

**山田** これからは予防に重点を置くことが重要で、口の中を健康に保つため、早期発見、早期治療をすべきです。そうなること当然ながら、歯科健診が前面に立っていかざるを得ないと思います。高校までで義務化が終わっている歯科健診を、国民全員が年1回は行えることを目指して、国民皆歯科健診実現議連を発足し、そして自民党の政権公約にも「国民皆歯科健診の実現」

というものが入りました。これが一つの突破口になると思います。これができるば、口の中の疾病予防になり、結果として病気の予防になっていく。この公約を実現することが、我々に課せられたテーマだと思います。

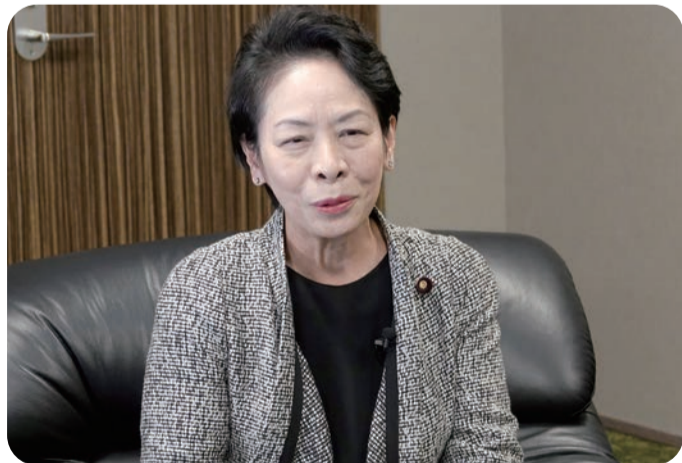


歯科への正当な評価

**高橋** しかし現実的なところに目を向けると、歯科医療に対する保

険の評価は、世界一低い対価の下でやっているというのは、色々なデータから分かっています。金銀パラジウム合金の問題、根管治療、義歯等について、ほとんど我々の手元には何も残らないような状況で、場合によっては、赤字を覚悟で保険治療を維持している。このようなことを看過していくと、歯科医療機関の存続に大きく影響する。国民のために必要な社会貢献をしている歯科医師に対して、これが潰れてしまつては国民が不幸になる訳です。日本の医療は国策医療ですから、国の政策に沿って我々は医療を行っている。そういうなかで、国の政策を変えるには、国会議員の先生方のお力、立法府の力がなければ絶対に不可能です。先生方、歯科の現場をご覧になって、どういう方向性でこれからかじを切っていくのが、日本の国民のためになるのかという観点からお話をいただければと思います。

**山田** 公定価格を決めている金パラの値段が、常に実勢価格が上がって赤字になるという状況は、公定価格にあるまじき話で、赤字が出た場合は、国が補填してくださいと言わなければなりません。これは正当な要求だと思っております。ですから、そういったものを、我々は強力にやると同時に、もう一方で、治療に対する評価は、歯科医学会からの資料に基



づいたエビデンスが必要だと思えます。それを、財務省や厚労省にしっかりと伝えておかないと、国会議員が政治力だと怒鳴っても、政策を実施する部門が、なるほどという資料がないと実現できないと思います。

**比嘉** いま、山田先生がおっしゃるように、理論武装して戦うことが必要だと思います。学会や医療関係のシンクタンクで現場の状況をエビデンスをもって証明してもらうことが重要で、歯科の頑張っている姿を理解していただけたら良いかなと思います。

**高橋** いま、コロナ禍で落ち込んだ歯科の保険請求額が元に戻ったと言われています。しかし実際には、金銀パラジウム合金の高騰、新型コロナウイルスの感染予防費、感染廃棄物処理費用の上昇等で経費がかさみ、歯科医療機関にとってプラ

スにはなっていない。こういう事実を公益社団法人日本歯科医師会、日本歯科医学会、そして我々の組織の結束力で、エビデンスをもって訴えていくことが、解決の糸口になると思っております。それぞれお立場が違う先生方の声を聞かせていただき、日本歯科医師連盟のこれからの方向性を決める大きな種にしたかと思っておりますので、よろしくお願ひします。本日はありがとうございました。  
(※記事中の写真は撮影のためマスクを外しております。ご了承ください)

歯科関係国会議員、参議院厚労委員長および国対副委員長に就任

令和3年11月の特別国会、12月の臨時国会にて、今回ご対談いただいた比嘉参議院議員は11月15日付で【参議院国会対策委員会 副委員長】に、12月6日付で【参議院厚生労働委員会 委員】に就任し、山田参議院議員は12月6日付で【参議院厚生労働委員会 委員長】に就任した。

当連盟としては、引き続き歯科関係の議員と連携を深め、さらなる歯科医療政策の実現を目指してまいります。

[1面からの続き]

【栃木県】(11月11日)

日本歯科医師連盟会長の高橋英登先生および日本歯科医師連盟顧問の比嘉奈津美参議院議員より Web にてご挨拶をいただきました。

山田 宏 参議院議員より、歯科口腔保健・歯科保健医療費の充実・強化関連予算の推移、歯科保健医療の充実に関する緊急提言書、歯科口腔医療勉強会、歯周病と新型コロナウイルス感染症の関連性や金パラの公定価格の推移等について Web にてご講演いただきました。ご講演後の質疑応答では活発な意見交換がなされ、大変有意義な会合となりました。

山田先生の歯科に関する深い理解、歯科界の声を政界へ届けていただけた人物であると、出席者一同、十分理解を深めることができました。



栃木県(Web)

【北海道】(11月12日)

今回は各郡市区連盟と技工士連盟、衛生士連盟の代表者72名を対象に開催しました。参議院議員に繰り上げ当選された比嘉顧問をご紹介する良い機会と考えていましたが、残念ながら比嘉、山田両顧問ともに特別国会のため実出席がかなわず Web 出席となったものの、実出席と遜色ない力強いお二人の講演がありました。比嘉顧問の後ろには当選祝いの胡蝶蘭が並んでおり、参加者一同は改めてお祝いの拍手を送りました。

また、出席者から質問のあった「令和3年度新型コロナウイルス感染症感染拡大防止継続支援補助金の手書き申請書について」に対し、山田顧問から手書き対応が可能であることを厚労省に確認済であるとの回答があり、いつもながらの対応の早さを改めて感じました。



北海道(Web)

※本写真については、ご提供いただいた県についてのみ掲載しております。

令和2年12月5日から令和3年11月16日までに開催された全国のデンタルミーティング(詳細は日本歯科医師連盟HP会員のページをご覧ください)

令和2年 群馬、東京、岐阜、茨城、東京

令和3年 岩手、和歌山、北海道、宮城、熊本、熊本、鳥取、鹿児島、群馬、茨城、熊本、長崎、福島、東京、佐賀、石川、岐阜、福岡、新潟、熊本、東京、山口、東京、新潟、山梨、香川、静岡、兵庫、岐阜、岐阜、北海道、岐阜、岐阜、岩手、北海道、岩手、栃木、新潟、岩手、富山、宮城、青森、福島、岩手、千葉、鹿児島、宮城、秋田、山形、埼玉、福井、岐阜、宮城、三重、大阪、静岡、北海道、岐阜、熊本、栃木、北海道、兵庫 ※計69回(その他含)

<今後の開催予定> 神奈川、群馬、東京、岡山、千葉、山口、東京、愛媛、東京、埼玉、東京、長野、群馬、岐阜、静岡、三重、新潟、大阪、埼玉、兵庫、奈良、福井、石川、富山、京都、和歌山、三重、千葉、北海道

※各都道府県自治体による感染症対策の状況を鑑み、変更となる場合がございます

都道府県歯科医師連盟

理事長・事務長会議が開催

参議院議員選挙における情報共有を趣旨とし、令和3年10月14日(木)午後1時よりベルサール九段3階ホールにおいて都道府県歯科医師連盟理事長・事務長会議が開催された。

会議の司会進行は家田副理事長が務め、開会の挨拶を行った。また、会議冒頭、高橋英登会長は会長挨拶で以下のように述べた。



高橋会長

「日本歯科医師連盟は引き続き公益社団法人日本歯科医師会を支え、国策医療を推進していきたい。日本歯科医師連盟前顧問の比嘉奈津美先生が今月の中旬にも繰り上げ当選する見通しとなっている。また、厚労

省には新たに歯科担当の審議官が配置された。本連盟は比嘉先生をはじめとする国会議員の先生方と手を携え、国民歯科医療および会員の先生方のために、鋭意活動していきたい。」

続いて日本歯科医師連盟前顧問山田宏参議院議員より挨拶があり、以下のように述べた。



山田参議院議員

「比嘉先生が国政に復帰した際にはともに国民歯科医療のため全力で取り組んでまいります。続いて日本歯科医師連盟前顧問比嘉奈津美氏より挨拶があり、以下のように述べた。



比嘉前顧問

には、歯科医師の国会議員として初心を忘れず全力で国政に取り組み、山田参議院議員と協同して連盟存続意義を薦めていきたい。」

また、本会議の出席者である都道府県歯科医師連盟の選挙責任者や実務者を対象に、日本歯科医師連盟顧問弁護士の橋爪雄彦氏より、「日常の政治活動と選挙運動」をテーマに講演があり、活発な質疑応答が行われた。その後、本連盟の今後の活動等について協議し、実りある意見交換を行い、本会議は盛況のうちに終了となった。



都道府県歯科医師連盟理事長・事務長会議

ホームページ会員・メルマガ会員登録のお願い

下記のQRコードをスマートフォンやタブレットなどでお読み取りいただき、「日歯連盟ホームページ会員登録のお願い」からご登録をお願いいたします。

※パソコンからご登録の際は、「日歯連盟 会員申請」もしくは「https://jdpf.jp/register」で検索してください。

メールマガジンの配信を希望される方は、登録画面の「メールマガジン(連盟の活動報告等)」の配信を希望するにチェックを入れて申請してください。



かけはし 日歯連盟 常任理事 高橋 雅一. 現在新型コロナウイルス感染症が減少したが、感染拡大当初は、マスクやS.N.S.などの「不要不急の歯科治療は避けよう」との軽い一言から「歯科治療はコロナが感染しやすい」との風評が広まり、歯科の受診抑制が起きた。今年1月に入り、吉村大阪府知事の「歯科医院でのクラスター発生はゼロ。何かある」というツイッターに対し、山田顧問が「歯科では感染リスクが高い」という認識が徹底されている」とリツイートした。このような報道によって歯科に対する評価が上がり、患者の来院回数も回復傾向にある。コロナ禍のなかで、我々歯科医師はマスクやSNSで逆境におかれ、また皮肉なことにそのマスクやSNSで評価が戻りつつある。このようにSNSなどのネット情報は、国民を動かす大きな影響力を持っている。ネット選挙解禁(2013年)から8年、特にコロナ禍になって初めての今回の衆議院選挙では、候補者の81%がツイッターやフェイスブックを利用しており、ユーチューブやインスタグラムの利用も大幅に増え、ネット選挙には欠かせないツールとなっている。来年度の参議院選挙に向けて、デジタル化やインターネットの活用が進むなか、コロナ前に行われていた街頭演説や集会のようなこれまでの選挙運動に加え、ネットを活用した選挙運動も重要になることは間違いない。日歯連盟はアナログとデジタルの選挙対策をともに行う態勢を整えているところである。会員の皆様には、一層のご理解とご協力をお願いしたい。